

AGRI FACTの連載に 皆様の多大な支援をお願うことも

小社が旧年10月に開設した新サイト「AGRI FACT」が充実してきました。本誌に掲載されたラウンドアップ（グリホサート）に関する記事や先ごろ行なったセミナーの様子を紹介するところからスタートしましたが、さらにこのサイトの真骨頂ともいえる怪しげな言説についてファクトチェック（事実確認）を実施する項目も追加しました。当面はネット上で一番問題化されているラウンドアップが中心となりますが、今後話題を広げていきます。

現在、掲載されているファクトチェックは、元農水大臣の山田正彦氏とその著書やブログ等で流布させている言説に關してです。

曰く、「グリホサートは発達障害の原因の一つ」、「グリホサート（ラウンドアップの主成分）

と、子どもの様子（怒りっぽい、落ち着きがない）に因果関係があるのではないかと検査をして、腸の粘膜に小さな穴が開くリーキーガット症候群の発症が判明」、「子どもが理由がないのに突然怒り出すのは、グリホサート（同）との因果関係が

あるのではと検査した。腸の粘膜に小さな穴が開くリーキーガット症候群により、真菌クロストリジウムが脳神経の炎症を引き起こしている可能性がある」、「グリホサート（同）はラットの実験で2代3代と、代を重ねるごとに異常が増幅される」、「さらに「数人の母親の母乳から最大で166マイクログラムのグリホサート（同）が検出された。体内に残留しないというモンサントの説明に疑義が生じた」などという6件についてです。

山田氏のこれらの発言について我々がファクトチェックを行なった理由は、同氏が元農水大臣であり、その経歴から大きな影響力があると思われると同時に、それがネット上で広く拡散されているからです。

この件のファクトチェックを依頼したのは、公益財団法人食の安全・安心財団理事長、東京大学名誉教授の唐木英明先生です。唐木先生は、薬理学、毒性学に関する世界的権威の科学者であり、2011年にはISIの論文被引用状況の調査で最も引用数の多い著者に選ばれています。

ファクトチェックは、山田氏が引用している本の著者の文章に当たるとともに、その著者が準拠している様々な論文やその論文の評価する文献もくまなく検証した上で報告をいただいたものです。その結果は、すべて「科学的根拠なし」。

我々は軽々しく先生にファクトチェックをお願いしましたが、先生の作業を拝見するにつけ、その作業の厳密さとファクトチェックの信頼性を確保するための真摯な姿勢に頭が下がりました。しかも、検証の信頼性と公平性を維持するために、ボランティアで引き受けていただいているのです。

そんな唐木先生に令和2年の「読者の会」新年会で記念講演をお願いしました。ネットや週刊誌等に氾濫する農業と食の不安を煽る情報にどう対処し、それを克服するリスクコミュニケーションは如何にあるべきかをお話いただく予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

そして皆様へのお願いです。風評を垂れ流すことは簡単ですが、それを正すには大変な労力とコストがかかります。叶うことならば、このサイトの運営を続けていくためにできる限り多くの皆様からの経済的ご支援をいただきます。この場を借りてお願いいたします。

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。